

「地域の水と共に生きる！」

－ 下水道インフラのストック効果を活かした地域活性化 －

『下水道の果たす地域の役割』



下水道は、「使った水の道」として「汚れた水」を「使える水」に変え、そして「雨水の道」として家屋への浸水や道路の冠水を防いでくれています。更に、山・里・海・川の保全に欠かせない地域の水の循環は、下水道によってしっかりと支えられています。下水道がなければ、安心

で快適な暮らしは営めません。また、あらゆる経済活動から生じる排水を処理するという欠かせないインフラなのです。下水道インフラは目に触れることがほとんどありません。その為、実感されることが大変稀なインフラですが、地域の暮らしや経済を支える重要な役割を担っているのです。このようなインフラ整備により地域の暮らしや経済を支える効果をストック効果といいます。そして、一度整備されたインフラは、そのストック効果を通じて、継続的にそして中長期的に地域の暮らしの質を高め、地域経済の効率性や生産性の向上に貢献しています。



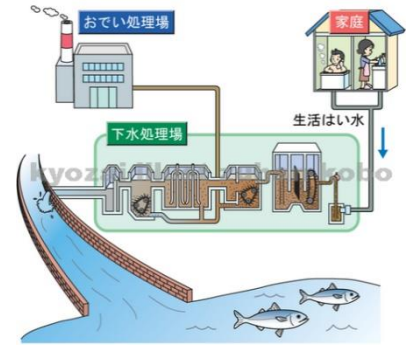
『下水道インフラがもたらすストック効果』

一口にストック効果といっても多岐に渡ります。下水道インフラは地域の水の循環の基盤として、多様なストック効果をもたらします。



●「汚れた水」の処理により水の質が改善されます。

地域の居住環境が改善され、快適で衛生的な暮らしができます。居住地域の拡大や維持に欠かせません。



●雨水の流れを調節し、安心して暮らせる居住環境を創ります。

台風や集中豪雨など災害による家屋への浸水や道路冠水による被害を防ぎます。浸水被害のない居住環境は、安心して暮らす上で不可欠です。

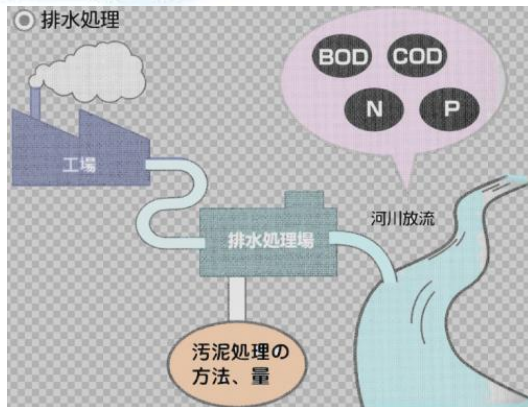


●川、湖沼や海の水質の改善により、地域で親しめる水辺環境が提供されます。

多摩川に鮎が戻るなど地域の川、湖や海に生き物が戻り、暮らしの中に親しめる水辺環境を実現します。

盤を創ります。

排水のいらないも、また工業における経済活動の基盤を提供するインフラは欠かせません。



●適切な排水処理が行われる産業基

産業はありません。農業にも、漁業においても多くの排水が発生します。地域盤として経済活動からの排水処理を提不可欠なのです。企業誘致にも欠か

このように、下水道インフラは地域の安全で安心な暮らしと経済活動の基盤としての役割を担い、そのストック効果は絶え間なく発揮されているのです。

『下水道インフラのストック効果と地域活性化』

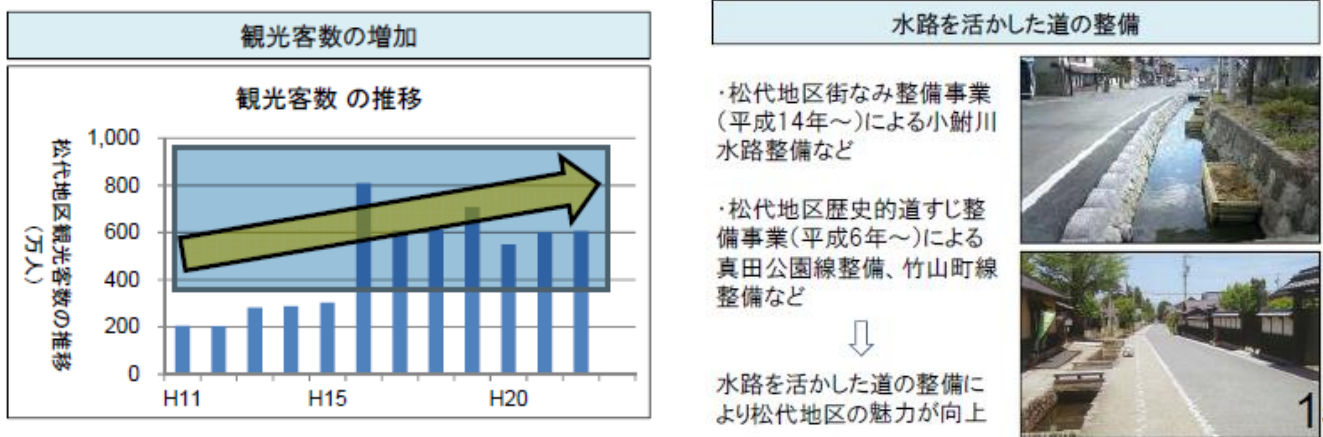
各自治体は、下水道インフラの整備にあたり地域の安心で安全な暮らしや経済活動を目指し、地域の発展に与する様々な政策的事業を行ってきました。宅地開発や企業誘致、地域の暮らしの豊かさ



を実現する事業です。今、将来に向かって抱える人口減少や少子高齢化により、様々なインフラの維持が難しくなっています。下水道インフラも同様の問題や課題に直面しています。そんな中、数多くの自治体が下水道インフラのストック効果を地域活性化に活かす事業を実施しておられます。

●長野県長野市「水質改善で魅力ある水辺空間を創出し観光客アップへ」

長野市では、下水道整備による市内の水路の水質を改善しました。その結果、松代地区の水路を活かした町並みを創り上げておられます。これにより、地域の風情が活かされた景観となり、2倍以上となる観光客数の増加という効果に結びついています。



●滋賀県「湖国・滋賀を支える下水道」

琵琶湖で有名な滋賀県では、下水道整備による琵琶湖の活用を実現されています。琵琶湖の赤潮・アオコの発生を懸念し、下水道整備が推進されました。

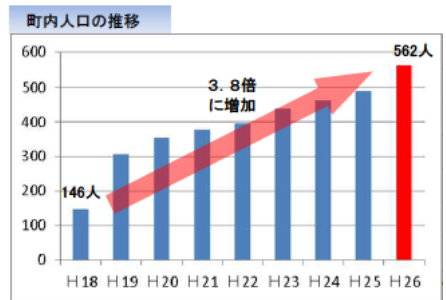
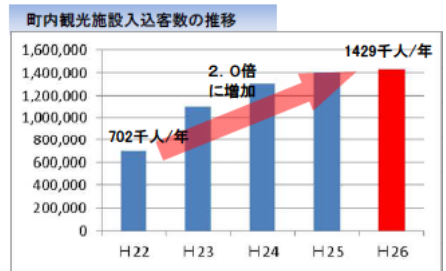
赤潮の発生頻度の減少と共に、湖の透明度が向上したことはデータからも明らかです。そして、水質の改善と共に観光客も増加し、地域の観光資源を活かしておられます。



●鳥取県鳥取市「下水道が支える地域産業と賑わいづくり」



鳥取市では、平成14年～17年にかけて下水道整備を進め、県内最大級の農産物の直売所、海鮮市場、レストラン、資料館が集積する新しい



い観光拠点と生活拠点における污水处理を整備しました。それにより、町内人口の増加と共に、賀露港を中心とする新しい賑わいが創りだされています。

●福岡県柳川市「下水道で循環型社会を構築し、地域経済の活性化」

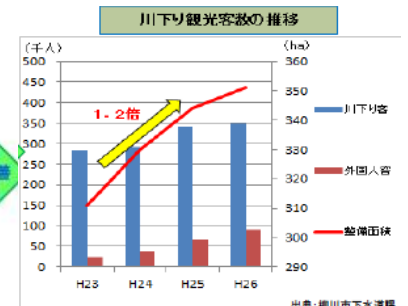
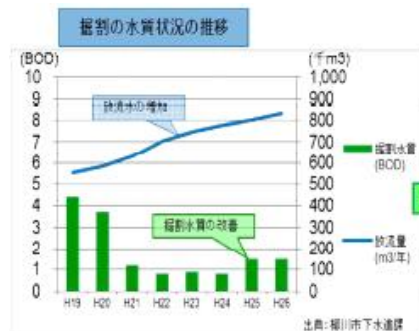
元々湿地帯であった柳川市には、柳川の暮らしや経済を支えてきた「掘割」と呼ばれる水路が、市を



縦横に巡っています。この掘割の水質改善そして下水道サービスの早期の拡大を目指し、下水道整備が進められました。更に、下水道処理水を観光事業

目的の水(観光用水)として利用され、「掘割」の水の質の改善だけではなく、「掘割」の水量を確保することも実現されています。

下水道の整備面積の拡大と共に、船に乗り掘割を巡る川下りの利用者も増加しています。

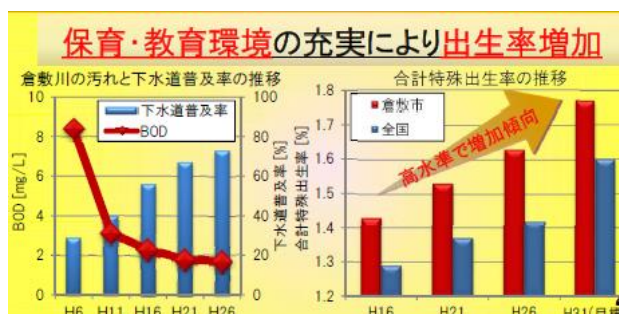


『水に関わる地域の資源を活かす下水道インフラ』

下水道インフラのストック効果を活用する地域の活性化事例はまだまだ沢山あげられます。北海道岩見沢市では、下水道事業の汚泥などを肥料に変える事業を行っています。製造された下水道肥料は地域の農家に利用され、下水道資源による循環型農業を進めておられます。まさに、地域の消費者～行政～生産者の新しい事業サイクルが実現しています。



また、岡山県倉敷市では、下水道整備を通じ、街並みの風情を醸し出している倉敷川の水質が改善



されました。それと共に、倉敷川沿いの文化施設や公園の利用者も増え、親子のふれあいや学びの場を創り上げています。そして、保育・教育環境の充実と共に、下水道普及率による地域の水環境の改善が、出生率(合計特殊出生率)が全国平均に比

べ高水準で増加する結果に繋がっています。

その他、兵庫県神戸市を筆頭に、下水道事業の汚水処理から生まれる汚泥を活用したバイオマスガス事業が実施され、地域由来のエネルギー事業となっている事例も見られます。

自治体による下水道インフラのストック効果を活かした多様な地域活性化事業は、地域の新しい活力を生み出しながら着実に進んでいます。下水道インフラ整備さえ実施すれば、「観光客の数を増やせる」、「地域の出生率を改善できる」、「地域の産業が拡大できる」・・・というわけではありません。しかし、水に関わる地域の資源を活かすことは、地域の特色ある住居環境、産業そして観光資源を活かすことに繋がります。地域の水資源を保全する下水道インフラの整備は、地域の水の利活用の基盤となり、地域活性化においても重要な役割を担っているといえるのではないのでしょうか。

地域に欠かせない下水道インフラを今後どのように維持管理していくのか・・・これは各地域にとって大きな課題です。その為に、前回のコラムで申し上げた通り、民間の資金やノウハウを導入する民間活用は、下水道事業のこれからの運営方法の選択肢として重要な課題と考えています。さらに、今日のコラムでご紹介しました通り、下水道インフラが持つストック効果を活かした地域の活性化を追求することも重要だと思えます。

「地域の水を活かしたい」、改めてそう強く思っています。

※ 本コラムでご紹介いたしました「下水道インフラのストック効果と地域活性化」の事例は、国土交通省 HP「下水道-下水道事業のストック効果について」の事例から取上げさせていただきました。

